The Zoological Society of Japan

新著紹介

加藤正世著　昆蟲の生活研究　（少國民理科の研究叢書）
高橋敬三著　海岸の動物研究　（少國民理科の研究叢書）

研究社の「少國民理科の研究叢書」は執筆者に肩書は立派でなくとも新進或は中堅の適任者を擁へたので出來の良いものが多く，既刊13册中4册は文部省推薦圖書の榮を得て居る。新刊の上記2册は文部省や出版文協の推薦になるならないは別として，私個人としては安心して少國民にも其の父兄方にもお薦め出來るものである。動物學關係の高級な教科書や參考書が中々現れないのは誰しも遺憾とする所であるが，通俗的なものは此の處陸續と上梓され出る必要の無い何册かに混つて立派な內容を擁するものも相當誕生するから，動物學の正しい普及の爲又少國民の科學的涵養にも慶賀すべきことである。

偖啓蒙書は有り餘る知識の持主が餘裕綽々として書くべきであつて，調べながら一生懸命筆を進めるやうな物であつてはならないと云はれる。上記の2書は共に著者が身についたものを文章に移したのであるから少しも危な氣が無く，動物學者が讀んでも成る程と理解する所が多いであらう。加藤氏はよい子供の頃から今日まで何十年と蟲に親しみ，老少を問はず山野で氏に採集指導を受けた人々は延人員にすれば愕くべき夥多に上るであらう。高橋氏は內地でも南洋でも海岸の動物研究に豐富の經驗を持ち臨海實習指導はお手の物である。其の上兩氏がよく國民學校上級から中等學校中級までといふ讀者層を考へての立案と記述とは，子供の讀物や指導書であるべきものが屢々大人に持ち換へられて居る現勢からして褒められて宜いのである。

加藤氏は「器用」の精みたいな御方であるが此の書でも大部分のカットはお手製で卷頭の巧緻な原色圖版4枚まで自分で彩管を振つて居られる。紙芝居で蟬の生活を說明する所は描畫と構想の妙に感心させられる。春から冬と四邊の推移に伴つて其の時々の昆蟲を取り上げ造化の妙を掘り下げて行く記述法である。高橋氏は敍景に優れた文才を持つて居られる。私はそれを高く評價するものである。三重縣答志島を舞臺とする漁村の夏に始まつて潮のみちひ，海岸の動物の採集，潮干狩，干潟の動物と前半は場面轉換も鮮かで加ふるに動物畫家として知られる隼瀨正直畫伯がいつもとは違ふ世界を描いて居るのが面白い。南方の要職に就かれた高橋氏が內地の少國民に此の贈り物を遺して行かれるのは御自身でも本懷であらう。兩書共表紙と函の美しい圖案は此の叢書の監修者のお一人である福井玉夫博士の筆である。B6判上製函入，昆蟲の方は本文248頁，昭和17年8月發行，海岸の方は本文236頁昭和17年9月發行，研究社，1.50圓。（高島春雄）

新刊速報

	著者	書名	形態及裝幀	頁數	定價	發行所
1*	田中茂穗	隨筆魚の眼	A5 上製函入	196	3.80圓	櫻井書店
2	堀七藏 弘田芳弘	動物のくらし方の研究	B6 上製	186	1.60	皇國青年教育協會
3*	高橋敬三	海岸の動物研究（少國民理科の研究叢書）	B6 上製函入	236	1.50	研究社

NII-Electronic Library Service